【カレント・トピックス】

# カナダのNew Horizons Programについて

岡　本　民　夫

## はじめに

高齢者問題をかかえた諸国ではその対策として，所得，医療，保健，住宅，雇用，福祉など広範多岐にわたる諸施策を講じているが，こうした施策が一定の水準に達した国では高齢者の生活の質（QOL）や生きがいが新たな課題としてとりあげられるようになっている。

カナダでは，高齢者対策として，連邦，州，地方自治体さらには，各種民間団体などが各種の福祉対策を展開しているが，そのなかに小規模ながら，新しい発想に基づく高齢者の生がい対策が実施されている。

これからの日本においても生きがい対策は極めて重要な施策の一つとして考えられると同時に，その基本理念に示唆に富む内容が含まれている。これがNew Horizons Programである。

この制度は1972年7月，連邦保健・福祉省の提案によって，連邦会議が承認した施策で，引退した高齢者に対して講じられたいわゆる生きがい対策の一環をなすものである。このプログラムは年金補給あるいは所得補助の意味や失業対策として雇用の機会を用意することを意図して企画されたものではないところに特徴がある。つまりそれはあくまでも高齢者の孤独（loneliness）と孤立（isolation）を予防し，軽減するとともに地域社会の諸活動に積極的に参加するための場と機会を用意して，その成果が高齢者や地域社会に一定の利益をもたらすことを意図するものである。したがって，わが国の生きがい対策にみられるように，プログラムの企画・計画から会場の設営さらには運営の細部にいたるまでサービス供給主体が何から何まで，すべて準備をして，文字通り上膳据膳で運営する方式ではなく，あくまでも高齢者が自主的にその発想と内発的エネルギーに基づいて，自らが企画・計画し，組織して創造的なプロジェクトを構成し，それに対して必要な援助を連邦政府が助成しようとするものである。その意味で新しい地平を高齢者自からの意志と発意と行動で開拓することからこの名称がついたのではないかと考えられる。

## 1　カナダの高齢者

1990年版の『カナダ年鑑』（Canada Year Book）によると，カナダは総人口25,923,300人（1988年現在）のうち，65歳以上人口は2,697,575人で高齢化率は10.4%であり，わが国とかなり近似している。また，75歳以上の後期高齢者の伸び率は，1976年が3.3%であったのが，81年には，3.6%，86年には4.1%とかな

表1　65歳以上人口における年齢別，性別の婚姻関係（1988年現在・単位千）

| | 独　身 | 既　婚 | 配偶者無し | 離　婚 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全　体 | 223.0 | 1,621.8 | 960.6 | 73.4 | 2,878.8 |
| | 7.6% | 56.3% | 33.7% | 2.4% | 100% |
| 男　性 | 86.1 | 923.5 | 163.7 | 31.2 | 1,204.4 |
| | 38.6% | 57.0% | 17.0% | 42.0% | 41.8% |
| 女　性 | 136.9 | 698.3 | 796.9 | 42.2 | 1,674.3 |
| | 61.4% | 43.0% | 83.0% | 58.0% | 58.2% |
| | (100%) | (100%) | (100%) | (100%) | (100%) |

資料出所：Statisitics Canada, Canada Year Book, 1990, pp. 224.

り急ピッチで増加し，要介護性の高い高齢者が急増している。さらに，高齢者の年齢階級別にその男女の実態をみてみると，1988年の時点で65~69歳までの男性は450,400人（45.5%）であるのに対して，女性は540,100人（54.5%）と男女差に1割程度の開きがあり，70歳以上では，男性75,410人（40.0%）に対して，女性は113,420人（60.0%）となっており，女性の比率がここでも一層大きくなっている。

次に高齢者の孤立や孤独と関係の深い年齢別，性別による婚姻関係を65歳以上についてみると，表1のようになる。

この数値からも明らかなように，高齢期における孤立化は相当進んでおり，独身者の場合，全体では7.6%にすぎないが，男女比でみると男子38.6%に対し，女性は61.4%と圧倒的に女子が高くなっている。配偶者の無い人は全体では33.7%と極めて高く，男女比でみると，女子においては83.0%を占めている。また，高齢者で離婚している者は全体では2.4%にすぎないが，男子に比べて女子の比率がかなり高くなっている。

このように高齢期における孤立と孤独は約半数近くに及び，ある意味で必然とみるべきであろう。この数字はすべての高齢者が孤立と孤独にさいなまれていることを示すわけではないが，他の世代と比較してみてもこの傾向は無視することのできない重要な課題である。とくに加齢にともなう心身の機能低下，行動半径の狭隘化，社会関係の稀薄化などは物理的にも心理的にも孤立化と孤独感を一層増強することはいうまでもない。こうした事態は，カナダの社会構造，文化，宗教，生活様式，家族形態，価値観などからして，わが国とは異なる側面があることはいうまでもないが，高齢者を社会的に萎縮させ，自閉傾向を助長し，保安上も非常に危険な状態になっていることは事実である。

少なくともこのプログラムはこうした状況に対応して，高齢者に社会参加の機会を用意し，そのなかから社会関係を修復させ，ソーシャルネットワークを拡張していけるようにすることを意図するものである。

## 2　施策の特徴

新機軸としてカナダ政府が打ち出した New Horizons Program は，1972年連邦議会において通過した施策で，次のようないくつかの目的と意図をもって登場したもので，その概要は以下の通りである。

第1の目的は第一線を引退した多くの高齢者がその生活様式や社会関係の喪失からくる孤立

と孤独感を軽減，緩和するために地域社会の諸活動に積極的に関与し，参加する場と機会を用意することにある。

第2には高齢者が保有する多くの貴重な才能（talent）と技能（skills）あるいは経験を生かし，高齢者自身の利益のみならずその社会のためにも役立つような成果を生みだし，創造し，それらを還元していこうとするものである。

第3にはこうした意図をもったプロジェクトはその性格上，非営利事業であることが条件であるが，さらに重要な点はこれらの助成事業が引退した高齢者の所得確保の手段でもなければ，失業対策でもないことであり，助成金は参加者のサラリーに当ててはならないことになっており，その意味で，まさに純粋の生きがい対策そのものであるところに特徴があるといわなければならない。

そして第4には，このプロジェクトは原則として，高齢者自身による自主的，主体的な発想と発意に基づくものであり，10人以上のグループ構成からなっていることが条件である。そして，このプロジェクトが一定の成果をあげるに必要な期間が18ケ月であることも大きな特徴である。

このプロジェクトの内容にはさまざまなものがあるが，例えば，レクレーション事業の提供，クラフトや趣味等のプログラム，歴史資料の収集・整理刊行，文化，教育事業，ソーシャルサービス，情報収集・提供，高齢者活動センターの運営等その活動事業は広範多岐に及んでいる。

他方，このプロジェクトを背景から支える財政と参加している高齢者のグループについてみると，表2のようになる。

**表2　New Horizons Program の数と予算**

| | プログラム数 | 予算（カナダドル） |
|---|---|---|
| 1972～73年 | 494 | 2, 145, 144 |
| 1973～74年 | 1, 614 | 8, 625, 427 |
| 1975～76年 | 3, 430 | 19, 086, 940 |

やや数値が古いが，この表にみられるように，出発当初はわずか500足らずのプログラムにすぎなかったが，1970年代の中盤の段階ですでにプログラム数は3, 400をこえ，約7倍に増加しており，単純に計算しても，カナダの65歳以上の高齢者2, 697, 575人（総人口の10. 4%）に対して，3, 400のプロジェクトがあるところから，3分の1の高齢者は何らかの形でこのプロジェクトに参加している勘定になる。

## おわりに

このようにカナダの生きがい対策は日本とは逆に自発的なプログラムを中心とするもので，個々の高齢者の主体的な意志とエネルギーによって，自主的に展開されているところに注目をしなければならない。

勿論，日本でもこうした試みがないわけではない。今年筆者の提案を基礎にした京都府における『高齢者いきいき創造事業』などは，高齢者の発意と行動による自発的活動に対して行政が財政的にバックアップする形態をとっており，その基本的思考様式はカナダをモデルにしたものに他ならない。

（おかもと・たみお　同志社大学教授）